

微笑みありがとう

平成二十六年十二月二十五日から平成二十七年六月二十一日まで、ふれあい東戸塚ホスピタルに入院していた。

史也は理学療法士である。病院のリハビリテーション科に勤務している。リハビリは一人二〇分としつかりときめられていた。最初は敦子で、三番目が明子のところである。

当時、先生たちのイケメンランク付けが話題になっていた。看護婦の間では杉山さんが人気であったが、敦子と明子は二人で史也先生が一番よねと楽しんでた。時にはリハよりも風呂が先のことがあったが、その時は迎えに来てドライヤーをかけて髪を乾かしてくれた。お互いの目を見ながらマッサージしたりストレッチしたりしていると、どちらからともなく可笑しくて笑いだしてしまった。

「先生は瞳がとてもきれいだけど何を食べて成長したの？」「ふつうのごはんだよ、お母ちゃんのごった普通のご飯だよ、お宅こそ何を食てるの？」「それこそ普通のごはん、主人は野菜が好きで、お肉よりお魚が好きだから、そんなところね。」

右足麻痺の敦子の為に歩行補助装具を注文してくれた。自動車は後

部座席に乗りなさいと言ったが、敦子が絶対助手席に乗りたいたと譲らなかつたので夫を呼び二人で指導を受け、乗れるようになった。車椅子の動かし方や四点杖をついての歩き方も教わつた。

作業療法士の磯部館先生とスピーチセラピストの中出先生のおかげで、日常会話、自宅での生活が可能になりました。本当にお世話になりました。

退院して三年経ち、夫が毎月、温泉に連れて行ってくれるので幸せな気持ちで暮らしている。明子さんは息子さんの建てた家で一緒に暮らしているとのこと、史也は結婚して幸せに暮らしているそうではよかつたです。先生おめでとうございます。

ケアマネージャの中島さんの計らいで、木曜日は訪問看護を受けることになった。午前はパソコンに向かったり、俳句を作ったりしている。午後から看護師の菅原さんが自宅の風呂にいられてくれて、その後、青島さんのリハで、一番嬉しい日である。

火曜日と土曜日はヒルズ東戸塚のデイサービスへ行き、いつもの

仲間、チャコちゃん、三保ちゃん、芳枝ちゃんと談笑して、楽しい時間を過ごしている。リハの先生達、介護士さん達は皆さん親切で感謝している。

緑園都市クリニック院長の久世先生と医学療法士の皆さんや看護士さん達には、週三日お世話になっている。

人工血管の手術をしてくれた第一病院の笹川先生にも感謝している。おかげさまで今日も元気で生きていられて。本当にしあわせです。

一番の感謝は毎日世話をしてくれる夫である。

可愛い娘達と孫達に恵まれ、二人の婿さんたちにもありがとう。

敦子は本当に幸せに過ごしています。

皆が幸せに暮らせるように祈っています。

皆のおかげできょうも明日も希望を持って生きていけるわ、みんなありがとう。

平成二十九年十二月吉日 鈴木敦子